

▼コラム

ウィズコロナとアフターコロナの一考察  
(その1)



シビルNPO 連携プラットフォーム 個人正会員  
有岡 正樹

1. 日本近代史 80 周年説の呪縛

2 年余前の 2018 年 6 月、この CNCP 通信 Vol.50 明治 150 年企画特集(10)で、日本の近代史が明治維新(1865 薩長連合：江戸幕府崩壊)、日露戦争勝利(1905 世界列強の仲間入り)、太平洋戦争敗戦(1945 広島・長崎原爆投下)そしてプラザ合意(1985 円の為替自由化、Japan as No.1)というように 80 年周期で「禍福」あざなえる歴史を歩んできたことについて触れた。そしてその後空白の 20 年、30 年と称されて日本の国力が右肩下がりで劣化していくとの思いを抱きなが、次の 80 年に当たる 2025 年の「禍」の引き金は何か頭を離れなかった。経済戦争や首都東京壊滅の大震災、さらには米朝確執が高じての中国を巻き込んだ戦争の可能性などである。そんな中で世界を窮地に引き込む今回のコロナ禍(Covid-19)である。超大国の元首が第 3 次世界大戦と揶揄する言も報道されていた。

2025 年を境に日本は、V 字的にその振り子を反転させられるのか、はたまたコロナ禍に合わせて他の難事も重なって 10 年といったなべ底的窮地を経てやっと反転するのか、真剣に考えてみよう、今回のコロナ禍問題に思いを馳せてみることにした。

2. 世界と日本の新規感染者拡大状況

世界的には 2020 年 1 月 11 日、中国の湖北省武漢で第 1 号の新型コロナウイルス感染者が公表されそれが世界に広がり、全世界の累計感染者数 50 万人が報告された同年 3 月 11 日、WHO によりパンデミック宣言がなされる。その後の加速度的な感染拡大を、全世界で感染者数が計 500 万人増加する毎に要する日数というファクターで右表のように整理した。最初の 500 万人拡大には累計で 131 日を要しているが、次の 500 万人増加は 38 日でその後その経過日数は減少していく。

8 月から 10 月初の 2 カ月については、その拡大日数は 20 日弱とほぼ一定となるが、皮肉にも米国大統領選挙に歩調を合わすかのように欧米での急速な再拡大がその勢いを倍加させるに至り、ヨーロッパでは「第 2 波」に入ったということで、それぞれの国の状況に応じた拡大防止策が取られ出しているが、この波状的拡大傾向は今後も続くと考えられる。治験の最終段階に入ったいくつかの有望ワクチンが定常的な適用段階に入り、その効果が具現化されるまでにはまだ数ヶ月は要するとみられ、発生後ほぼ 1 年で 1 億人感染という事態もあり得る状況と言える。

全世界・地域のコロナ感染者数累計の推移

月日	累計感染者数(万人)	達成日数	上位5カ国
1.11	—	—	武漢第1号
3.11	50	60	
4.01	100	21	
4.16	200	15	米国、ロシア、イタ、ドイツ、フランス
4.27	300	11	米国、ロシア、イタ、フランス、英国
5.21	500	24	米国、イタ、ブラジル、英国、ロシア
6.28	1,000	38	米国、ブラジル、イタ、インド、英国
7.23	1,500	25	米国、ブラジル、インド、イタ、南ア
8.11	2,000	19	米国、ブラジル、インド、イタ、南ア
8.30	2,500	19	米国、ブラジル、インド、イタ、ベル
9.18	3,000	19	米国、インド、ブラジル、イタ、ベル
10.05	3,500	17	米国、インド、ブラジル、イタ、ロシア
10.18	4,000	13	米国、インド、ブラジル、イタ、トルコ
10.30	4,500	12	米国、インド、ブラジル、イタ、フランス
11.08	5,000	9	米国、インド、ブラジル、フランス、イタ
11.17	5,500	9	米国、インド、ブラジル、フランス、イタ

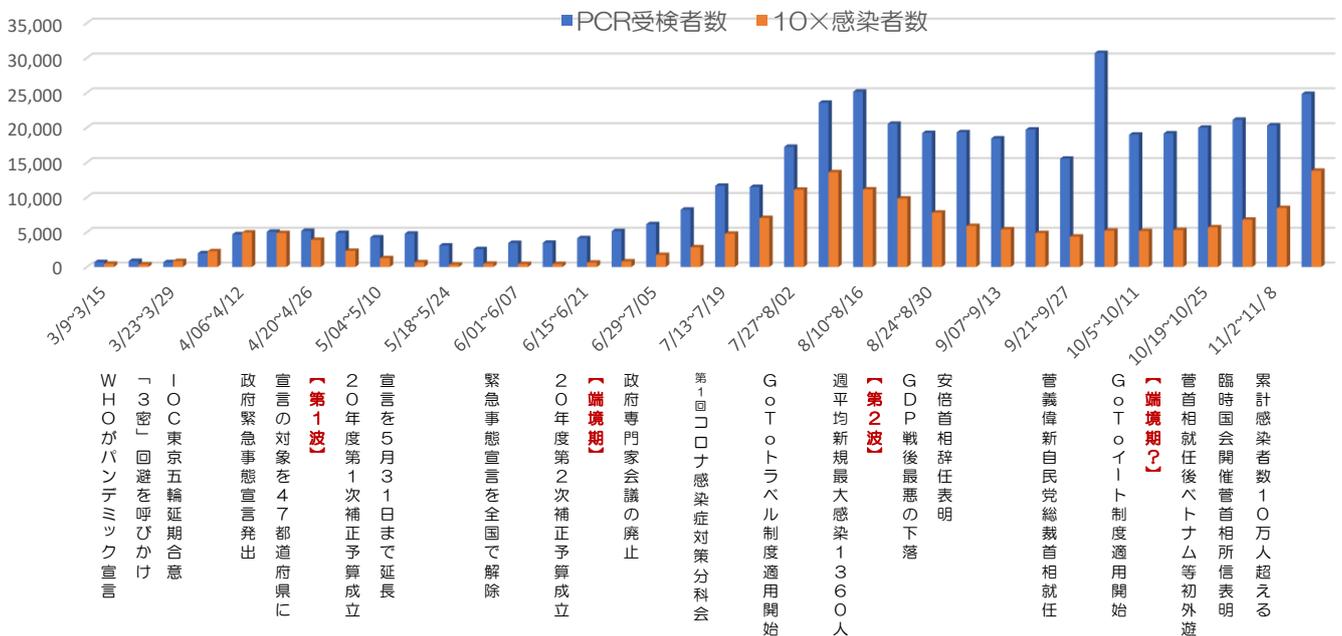
日本経済新聞朝刊：米「ウォール・ストリート」大学出所「世界各国・地域の新型コロナウイルス感染者数」

一方、日本での新規感染者発生状況は、下図に示すように後述の PCR 検査との関係に視点を当てて、3月9日から11月15日迄8カ月の週単位平均新規感染者数の推移として整理されている。また、日本政府の政策やいくつかのマイルストーン的事項をグラフの時間軸に合わせて併記した。

この推移図は、厚労省 HP：報道・広報の報道発表資料のうち、「新型コロナウイルス感染症の現在の状況と厚生労働省の対応について」として毎日、最下段に例を示すような表で公表されている。この表の左最下段の PCR 検査実施数と陽性者数の合計値を毎週月～日曜日7日間平均して週変化のグラフを作成した。この数値が正式に厚労省の HP に公表され出したのは2月10日で、その時の PCR 受検者数および陽性者数は、いずれもその時点までの累計で938人および26人と、国内感染拡大の初期段階で、統計的に云々の段階ではなかった。それが、直近の11月15日現在では PCR 受検者数は305万人弱、陽性者数（感染者数）は11万6千人を超えている。なお、本統計は5月9日までは公表日の正午（12：00）現在となっているが、翌10日からは0：00 現在となっている。これにより実際の数値はその前日24：00 までとなるのだろうが、本件等では週単位という‘束’での変動で論議しているため、図の横軸は報告日を基準としている（グラフの数値は1日前までの7日間平均となる）。

これまでこの調査においては、上述のように日々の PCR 検査数と感染者数ではなく、週平均値の推移をベースに議論を展開してきたが、様々な要因が重なり合って日々変動が大きく、日変化で議論することの意義について疑問を呈して今日に至る8カ月間、週平均での評価を貫いてきた。それにより推移していく事象の大きな流れがよく見て取れると考えている。次回は、この PCR 検査数と感染者数との関係で、政府政策を含め日本の感染拡大の経緯を考察してみたい。

### 感染者数・PCR検査受検者数の週変化



令和2年9月30日 厚労省 HP：報道・広報の報道発表資料

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_13863.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_13863.html)

	PCR検査 実施人数(※3,※7)	陽性者数	入院治療等を要する者		退院又は療養解除と なった者の数	死亡者数	確認中(※4)
			うち重症者				
国内事例(※1,※5) (チャーター便帰国 者を除く)	1,870,073 (+103,676)	82,053 (+531) ※2	5,324 (-49)	151 (-10) ※6	75,151 (+562)	1,563 (+7)	61
空港検疫	213,992 (+1,289)	942	85 (-1)	0	859 (+4)	1	0
チャーター便 帰国者事例	829	15	0	0	15	0	0
合計	2,084,894 (+104,965)	83,010 (+531) ※2	5,409 (-50)	151 (-10) ※6	76,025 (+566)	1,564 (+7)	61